

# 色彩学

BULLETIN OF THE COLOR SCIENCE ASSOCIATION OF JAPAN

VOLUME 5 NUMBER 1 2026



## 巻頭言 一番きれいな色ってなんだろう？

What's the Most Beautiful Color?

理事 田代 知範 (静岡大学)

Tomonori Tashiro Shizuoka University

このたび令和7年度より、日本色彩学会の広報担当理事および広報委員長を拝命いたしました。そのご挨拶も兼ねて、本巻頭言を書かせていただきます。色彩に関わる学術領域は、物理・化学・工学・情報学・心理学・芸術・教育・歴史など幅広く多層的であり、その交流の場に貢献できることを光栄に思います。色彩研究に携わる者として、また本学会の活動をより多くの方に届ける役割を担う者として、あらためて身の引き締まる思いです。学会の魅力を広く社会に伝え、皆さまの研究や活動の色をより豊かに発信できるように努めてまいります。

私はこれまで、等色関数の個人差をテーマに研究を行ってきました。私たちは日常的に「同じ色を見ている」と思いがちですが、実際には色の見え方には個人差が存在します。標準観測者に基づく色覚モデルは、長い間色再現技術の基盤として大きな役割を果たしてきました。しかし近年では、色再現の高度化や個人最適化、アクセシビリティへの配慮にともない、「標準」とともに「個人差」を扱う重要性が高まっています。物理的に同じ刺激であっても、観察者がそれを同じ色と感知するとは限らない。この事実は、色彩学における基本的かつ本質的な問いとして、改めて強い関心を集めています。色を見るという極めて身近な行為に潜む多様性は、学術的探究心を刺激するとともに、社会実装におけるインクルーシブな視点とも深く結びついています。

こうした「多様性」や「一人ひとりの色」に思いを巡らせるたび、ふと想起するものがあります。私事ではありますが、私は学生時代から Mr.Children の曲を

よく聴いており、今でも研究の合間などに耳を傾けています。彼らが描く音楽には、光や風景を思い起こさせる色彩的なイメージが随所に散りばめられており、聴くたびに内面に広がる色彩の世界が豊かになる感覚を覚えます。その中でも、題目にも掲げました「一番きれいな色ってなんだろう？」というフレーズは、GIFT という曲の冒頭に登場し、色彩に携わる者として心に響く問いであります。また、同じ曲の中にある「白と黒の間に無限の色が広がってる」という印象的なフレーズも、色という現象が持つ多様性や可能性、そして奥深さを端的に表現しているように感じます。

色彩学は、ヒトと光の多面的な関りを解き明かし、その知見を社会へ活かす学問です。異なる専門性が出会い、ときに混ざり合い、ときに議論を交わしながら新たな視点を生み出し発展してきました。その歩みは、まるで豊かなパレットが織りなす色彩の重なりのように、色彩学が常により広い色域を獲得してきた要因のひとつであると感じています。

広報という仕事もまた、色を扱う営みに近いものがあると考えています。皆さまから寄せられる多様な色が集まり、互いに響きあう中で、美しい調和が生まれる。このように、広報の役割は「一番きれいな色」を決めることではなく、会員一人ひとりの研究や活動の色を尊重しながら、無限に広がる色彩の世界を伝える手助けをすることだと感じております。

色彩学会の活動がより多くの方々の方に届くように発信していければ幸いです。今後とも、皆さまのご指導とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。